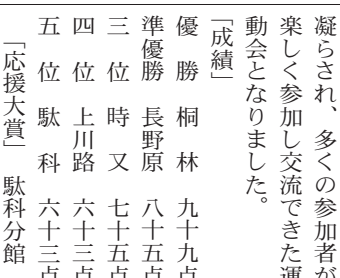
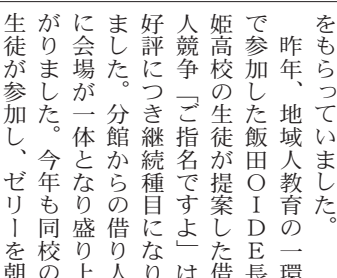
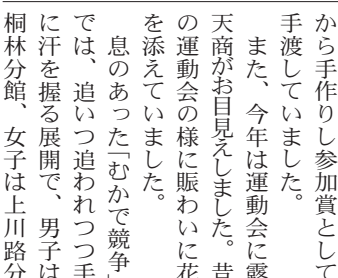
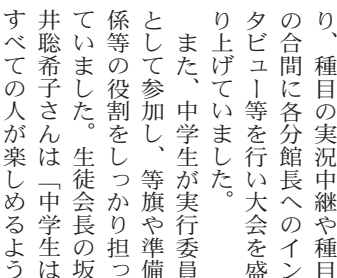
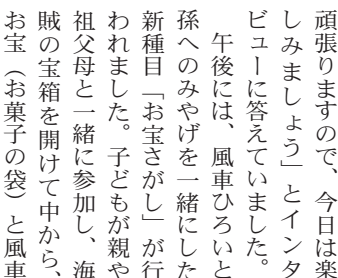
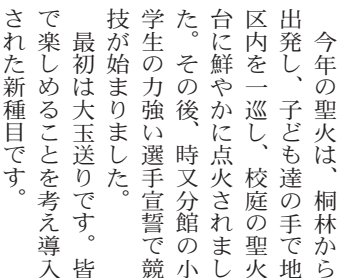
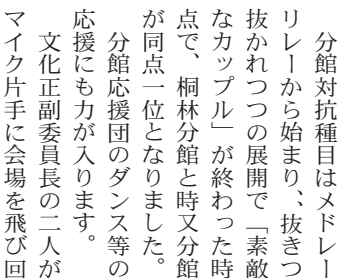


熱い一日、桐林分館が平成最後の優勝に!!

～竜丘市民運動会～



去る十月七日に、澄み切った青空のもと、恒例の竜丘地区市民運動会が盛大に行われました。各分館が優勝めざし、区民、家族そろって楽しい一日を過ごすことができました。



平成最後の市民運動会

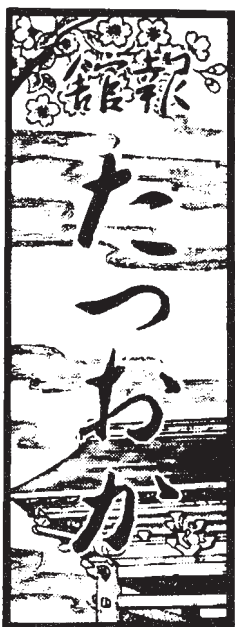
桐林分館長 中島 彰

十月七日に竜丘市民運動会が行われました。昨年は優勝を逃した桐林でしたが、今年も種目ごとに工夫が凝らされ、多くの参加者が楽しく参加し交流できた運動会となりました。

「成績」
優勝 桐林 九十九点
準優勝 長野原 八十五点
三位 時又 七十五点
四位 上川路 六十三点
五位 駄科 六十三点
「応援大賞」 駄科分館



わたしたちすべての関係者の方に感謝しつつ、来年以降も運動会を続けていけるように思いました。



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口 6,848人
男子 3,354人
女子 3,494人
世帯数 2,556戸
(30年11月末現在)

平成30年度
見る楽しみ・食べる楽しみ・遊ぶ楽しみ
竜丘地区文化祭

十一月十日・十一日の二日間、竜丘地区文化祭が開催されました。初冬の中、例年になく暖かい日が続く、この二日間も好天に恵まれ、様々な団体や委員会の発表・展示・販売等に多くの方々が足を運びました。

今年の文化祭は「見る楽しむ」「食べる楽しむ」「遊ぶ楽しむ」の四本立ての内容で、多くの方に楽しんでもらえる文化祭となりました。

「見る楽しむ」の今年の目玉は特別企画展「竜丘出身染色家三人展」でした。展示スペースには染め物作品が所狭しと展示されていました。一口に染色とはいえず、型絵染・手描友禅と様々な技法があるようで、会場には下平さんや酒向さんがいらつやつと、それぞれの技法や工程の違いを説明してくれていました。知り合いの方々もたくさん集まって、昭和十七年入学の竜丘国民学校の二年生の集合写真を見ながら、当時を思い起こして語り合う様子も見られました。

特別企画展以外にも、例年のように、園児からお年寄りまで幅広い年齢層の色々な団体から書道・油絵・手芸・図工などの力作が数多く展示され、竜丘における文化の高さを感じられる空間となっていました。

野外発表でも開会セレモニーの緑ヶ丘中学校吹奏楽部の演奏に始まり、保育園児や小学生・駄科音頭などの発表が行われ、会場を盛り上げていました。

昼食時には「食べる楽しむ」をテーマに多くの人で賑わっていました。「毎年おいしくて楽しみだよね。」と言いつつ、お汁粉などを多くの方がおいしそうに頬張っていました。



「遊ぶ楽しむ」ではトンボ玉・竹とんぼ・森のクラフト体験などが行われ、幼児から中学生までが夢中になって制作に取り組み姿が見られました。体育委員会によるけん玉・スラックライン体験にも多くの子どもが集まり、歓声を上げていました。

「販売」では竜丘と交流のある横浜市の団体による出

賑わった特別展

今年の文化祭の特別展示は、民俗資料委員会主催の「竜丘出身の染色家三人展」としました。当初、竜丘出身で著名な染色家下平清人氏の個展を文化祭で開催できないかと同年生の皆さんから打診がありました。

文化祭に個人展はなじまないが、竜丘出身の染色家が二名いるから三人展にしたらと提案し、開催の運びとなりました。

メインは下平氏とし、時又出身の酒向京一氏・木下冬彦氏の作品も展示することとしました。

文化祭の前日に南信州新聞記者の取材があり、初日(十日)の新聞に開催の予告記事が掲載されていた。新聞の効果は大きかった。



川哲朗さんの実家の海苔屋さんの出店があり、竜丘小六年生による鳶流峽のメンマの販売も行われました。また、ふれあいバザーにも多くの人が集まり、チャイルドシートの無料配布も好調でした。

多くの方の参加で盛り上がった2日間でした。



特集 竜丘の文化遺産
自由画



No.58 鳥居と石段
関島 芳馨



No.13 豚小屋
北澤小太郎

晩秋の鳶流峽に映える
天竜川鳶流峽紅葉・竹灯籠ライトアップ記念イベント

十一月十三日・二十五日の間、鳶流峽の紅葉・竹灯籠ライトアップイベントが初めて行われた。これは約八十年前に先人たちが青麻公園から大井川までの天竜川沿いに植えた紅葉が鳶流峽の竹林整備により美しい姿を現し、その紅葉を活かしたイベントをと企画されたもの。

また、十七日には船下り夜紅葉ライトアップ鑑賞ツアー＆メシマをはじめ地元産食材を使って秋の味覚交流パーティーが鳶流峽復活PJ関係者ら七十五名の参加で盛大に行われた。地域に今あるものを活かし、多くの団体や地域の方が協力してみんなが楽しい時間を共有できた一日であった。

協力団体
天竜川鳶流峽復活PJ
長野原竹青の会
竜丘リバーサイド研究会
長野原突つたり寄つたり
飯田OIDE長姫高校
飯田商工会議所竜丘支部
信南交通(株)舟下り事業部

天竜いなちく肉まんて交流
飯田OIDE長姫 林 成美



私が子供のころ、大好きだった図鑑の中に『未来の生活』というページがありました。その頃の時代から見ての未来予想図のようなものだったと思います。モノレール、電気自動車、地面から浮いて走る乗り物、家の中には、電子レンジ、電気調理器、ロボットのキッチンとお手伝いさん。子供心に、わくわくしながらいつも見ていました。現在の生活を見てみると、色々なロボットが生活の中に取り込まれています。家庭用ロボットと検索するとロボット掃除機、ペット型ロボット、会話ロボット・コミュニケーションロボット、ホームアシスタント、ロボットスーツなどが出てきます。一番身近に取り入れられているロボットと言えば、ロボット掃除機です。スイッチを押すだけで部屋の掃除は終わったのも同然です。時間の節約ができ、さらに省エネにもつながります。身近にロボットを取り入れて快適な生活が送れる時代になってきました。図鑑の中の『未来の生活』が現実になってきています。

産業界でもAIやIOTなどの先端技術の開発が進められています。ロボットやAI技術を取り入れることで、企業の人手不足や自動化による人件費削減などメリットもありますが、現在人間が行っている仕事が奪われ、失業者が増えるのではないかとというデメリットもあります。メリットとデメリットは紙一重です。後何十年もすると人類よりもはるかに高い知能をもったAIロボットがあなたの子供の上司になるかもしれません。